



笑う角に  
もう10年。

APOLLO DESIGN

# アポロデザイン10周年

会社の一階にできた、新進気鋭のフレンチレストラン「トアヒス」

2016年オープン早々、地元の飲食店情報誌「ソアニエ」に見開きで記事が掲載されてました。まだ全然知られてない店なのに。きっと編集長への圧力をかけたと思います。

また、テレビ業界では、全国放送の料理人バトル番組「ドラゴンシェフ」にも、しっかりトアヒスを出場させてました。しかも三年連続で。

ジャ○ー氏のような福岡の広告・メディアへの忖度力に感動です。これからも業界への影響力を期待してます。



アポロ計画 松山真介

# いいんじゃない？

高校生の時から、お世話になっているBLDG64。

このビルに守られて、見守ってくれて、15年が経とうとしています。

社会にでたことがなく、学ランでアルバイト先に出社して、

過ごした日々が今でも忘れられません。

構築していたシステムがうまく作れず、屋上で泣いて、

ようやく作れて、みんなでお祝いして..

あの青春の 때가忘れられません。

独立してこのビルを離れたものの、どうしても戻りたい一心で、

ビルの空室状況をずっとチェックしていました。

請求していた数百万の売上が振り込まれず逃げられて、

その時雇っていた人にも辞めてもらい、倒産しかけたどん底の時に、

シェアオフィスを4Fでしていることを知ると、経費削減も兼ねて、

すぐに引っ越しました。

4Fでのシェアオフィスの日々も満喫していた頃、

メンバーが少なくなり、4Fのシェアオフィスもなくなることに。

いよいよこのビルとおさらばかな~とと思っていましたが、

青春を謳歌したこのビルのが忘れられずに、

松山さんに「このビルに残りたい」と相談したところ、

「みんなが良ければ、良いよ！」と言って頂き、すぐ植村さんが近寄ってきて

「いいんじゃない？」と言ってから、BLDG64と切っても切れない縁となりました。

どん底に落ちた時も、楽しい時も、

見守ってくれるビルと、このビルと、メンバーと、植村さん。

まだまだこの青春は続いて行ってほしい。

続けることが一番の試練だけれど、

コツコツ積み重ねれば、奇跡は続いていく。

10周年、おめでとうございます。



西方 良昭

# うえむら白書

4年前のある日、植村さんから電話がありました。

その時は、印刷会社にいた私。

当時、植村さんとはそこまで親しくさせていただいていた訳ではなく、突然のお電話でした。

「あー、上園さん、数日後に手島さんから電話あると思いますんでヨロシクです」

ガチャ。

しっかり、数日後に手島さんからお電話あり、

お互いよくわかってない感じでハレムに誘われ

ハレムに入社して、今に至ります。

すべては博多の北川悦吏子の脚本によって世の中が動いているのです。

ジェームス三木など足元にも及びません。

ここにいる皆さんも植村さんの脚本にひと踊りもふた踊りもしているはず。

不思議です、

植村さんが言うのなら「うん、そうしよう!!!」

そっちのシナリオの方がきっと面白いかな!と思っちゃうのですから。

植村さんのこの信頼感、この人望。

すごいです。

これからもいろんな方の幸せの脚本を書いてください。

半分、青い私ですが、これからもついていきます。

私はあなたの作品です。

10周年、おめでとうございます。



上園 拓郎

# Win Win

ちょうちんメッセージじゃなくマジでアポロデザイン&植村さんには感謝しかありません。ハレム設立時の恩。アポロシアターに呼んでもらった時の恩。西方さんや小牧さんに頼った時の寛大さに対する恩。Win WinではなくこちらだけWinのバランスが悪すぎる関係が続いています。いつかどえらい嫌われるのではないかという恐怖を抱えながら、きっと今後も頼りにすると思います。

今からでも。少しでも貢献できればと。植村さん。アポロデザインの皆さん。引き続きどうぞよろしくお願いいたします！

10周年おめでとうございます！



岡田 賢

ハレム株式会社設立にあたり、多大なご尽力をいただいた植村康子さんは、社員全員の大恩人であり、影のCEOであります。

にもかかわらず、大変失礼なことに社内では「ドタキャンの女王」と呼ばれています。

飲み会などの日時が迫ると、植村さんの身にさまざまな想定外が起きるのです。

仕事のトラブル、大渋滞、体調不良、飼い猫のなんたらかんたら・・・

決してルーズな性格の方ではありません。ただ、植村さんを学生時代から存じ上げているのですが、他の人たちに比べ、アンラッキーと仲良しであるように感じます。

(原因については利助オフィスHP「不幸のメカニズム」をご参考に)

ふれたものを不幸にするアニメキャラがありますが、植村さんの能力は逆で、ふれたものから不幸を吸収しているように思います。

人に陽をあてて、自分は、そこに生まれた影に沈んでいく感じでしょうか。

植村さんの人生も後半期に。ぜひ、これからは自ら陽の当たる道を歩んでほしいと切に願います。

どうすれば運命を変えられるのか？ それは簡単です。何があっても飲み会をドタキャンしない強い意志を持てば、太陽は植村さんに微笑むでしょう。



手島 裕司

# テレビよりもラジオ

植村さんと出会ったのは、今から4.5年ほど前、ぼくが大学生のときでした。当時の僕はとりあえず単位を取るためにだけに講義に出席し、家では深夜ラジオを垂れ流して聞くような典型的なダラダラとした生活を送っている学生でした。

ただ漠然と"広告業界で企画したい!"と胸に秘めており、そんな時に知り合いにアポロデザインさんで著名コピーライターさんのトークショーがあるよとお誘いいただきました。僕はとりあえず広告業界に潜り込むぞというマインドになっていたため、どうにかアポロさんでアルバイトをさせてもらえないかと思いイベントに参加しました。イベント中は、著名コピーライターさんの話は半分で、植村さんの動向を気にするばかり。(岡田さんごめんなさい)  
イベント終了後に植村さんに駆け寄り、無事名刺を奪取することに成功し、そこから植村さんの優しさのお陰で、10ヶ月ほどアルバイトをさせていただきました。

その後"紹介したい会社がある!"と現在僕が勤める企業にお繋ぎいただき、植村さんのご尽力のお陰で、目標であった広告系の企業に所属することができました。ただ弊社が少し複雑なこともあり、最初に入った部署は"広告"の企画ではなく、"事業"の企画を行う部署。  
学生時代勉強もしていなければ、社会との関わりも少なかった僕からすると、本当に何もわからない状態でした。

そんな時に植村さんから一つのメッセージをいただきました。

"テレビは映像だから、わかりやすいし、伝わりやすいし、華やか。  
でもラジオは一見地味だけど、想像力も膨らむし、ジワジワ馴染むし、人間味が伝わってくる。  
どちらかといわれれば、君はラジオ派。  
君の実力は、ジワジワ発揮されると思っているから、焦らずにじっくり頑張るね!"

僕の好きなラジオに例えてくださった、そのメッセージには、業務で無力さを感じた時にいつも励ましてもらいました。

今では広告企画の部署に移ることができ、少しずつですが自分が主となれるプロジェクトもできています。植村さんには今の状況に導いていただいて、本当にありがたいと思っております。

何者でもない若者に対しても、慈悲深く愛を持って接してくれる植村さん。いつか恩返しできるように頑張りますー!



鳥居 一心

# アポロデザイン10周年おめでとうございます！

分野が違う植村さんと最初に出会ったのは3カ年プロジェクトの大川TATEGUMIでした。当時の私は、なんとか結果を出さないとという焦りと、おじさんズにナメられたくないという怒りが原動力の私に対し、植村さんは聖母のように分け隔てなく笑顔で周りに気を使い、影でフルサポートするばかりで全然前に出ようとしないので、真逆すぎて衝撃を受けたのを覚えています。なんて大人な立ち振る舞いなんだろうと。

その後、アポロデザインのシェアオフィスメンバーに加わった頃もスタッフではないのに美味しいおやつやご飯、イベント、そして台湾研修旅行にまで声をかけてもらい、たくさん愛されて甘やかしてもらいました。

仕事に恵まれず夜逃げ状態でシェアオフィスを出て迷惑をかけて以降も福岡に残っているしょうもない私を、いつも気にかけて応援してくれる植村さんには感謝しかありません。今後売れっ子になって植村さんに恩返ししたいです。もう少しだけお待ちください！



大庭 早子

# ファイクサー 植村の功績

植村さんに初めて出会ったのは、私の人生相談を聞いてもらうという建て付けの飲み会だった様に記憶しています。イケメン店員に走るよしこを横目に、親身に相談に乗ってもらった事を今でも鮮明に覚えています。あの時のアドバイスや紹介のおかげで、私は円満にバンド解散を果たし、無事にソロデビューができたと言っても過言ではありません。

それからも植村さんは数え切れないほどの私のわがままに、笑顔で対応してくれました。そしてたくさんの素晴らしい作品を私に与えてくれました。最近でも、懲りずに新しいバンドを結成し、新しい道を目指す私達に、植村さんは笑顔で暗躍してくれています。

これからもきっと、私はたくさんのわがままを植村さんにぶつける事でしょう。そしてその度に、きっと植村さんは笑顔で暗躍してくれる事でしょう。頂くばかりの私達ですが、これからもたくさん楽しい事を共有して、一緒に新しい事に取り組んでいきたいです。

今後とも末永くよろしくお願いいたします。

アポロデザイン10周年おめでとうございます！



新田 崇博

# 情に厚い

忘れもしない2019年2月。なんと私は植村家に泊まらせてもらうという激レア体験をし、それを経てさらに植村さんのことを好きになったエピソードです。

事の発端は、私の家の火事でした。

幸いなことに怪我はなく、けれど家が全焼しホテル暮らしを余儀なくされていた私に、植村さんからメッセージが届きます。

そのメッセージには私の身を案じる内容と、助けが必要ならば手伝えること、私が店長を務めていた『シカシマサイクル』のイベントに参加して元気をもらい感謝していること、具体的にできることのリストを載せておくのでその中にして欲しいことがあれば遠慮はしなくて良いということが、

ウェルカム感全開の文章で記されていました。

当時は2人で出かけたり、飲んだりしたことさえありません。

そんな私に同業界のマドンナ的先輩である植村さんがメッセージをくれたことに少し驚きましたが、愛に溢れた(しかも具体性のある)内容がとても嬉しく、せっかくなので泊めていただくことにしました。

当日、センスのよいお宅で素材を活かした美味しい手料理をご馳走になり、近況を語り合う内にいつの間にか二人して泣いていて、植村さんの印象が少し変わったというか…それまで『大人の理知的な女性』というイメージが強かったのですが、実際はものすごく情に厚い方なんですよね。

さらによく覚えているのは、翌日早朝に出掛けなければならなかった私をパジャマ姿の植村さんが送り出してくれたことなんですが、

家を失くし、職場にも行きづらくなり、自分の居場所の無さを感じていた私にとってはその無防備さが無性に嬉しく、

別れたあと運転する車の中でまたボロボロ泣いてしまいました。

正味、それまでめちゃめちゃ仲良し!という訳でもなかった知り合いに、そこまで出来る方ってどのくらい居るんでしょう。

それ以降ますます植村さんのことを尊敬&大好きになりましたし、私自身もそういうことができる人間でいたいと思っています。カッコよくてかわいい植村さん、アポロデザインさん10周年おめでとうございます。

これからも末永く、どうぞよろしく願いいたします。



大谷 星七

# やすこのゴルフデビュー

アポロデザインの皆さん、10周年おめでとうございます！パチパチパチ！

植村さんを突き動かしている大きな原動力はそのミーハー魂だと思ってます。ヒトでもコトでも、とりあえず世間の流行りには必ずいっちょ噛みしていく姿勢が、アポロデザインが10年を迎えることができた理由の一つなんじゃないかなあと。そんな植村さんですから、コロナ期間からの昨今のゴルフブームにも乗っていくべく、実は昨年からはゴルフを始めました。

その記念すべきラウンドデビューにご一緒させてもらったのですが、本人どこまでも謙遜しながらも、初心者にしては十分な腕前。でも初ラウンドですから当然、ミスショットもあります。そんなとき、植村さんはこう考えます。

「私のせいで、一緒に回ってる人に迷惑かかってないか？」「モタモタして後ろの組の人が困ってるんじゃないか？」

とにかく、自分のことより常に人のことを考える人です。

全然そんな気にする進行ではなかったのですが、そう伝えても、もうそのことで頭がいっぱいです。ついにはボールまで一目散にダッシュしていくと、そのままスタンスも取らず、ホッケーのように走りながら打つという前代未聞のプレイスタイルを編み出したのです。

それでもなんとか当てちゃうのが、持ち前のセンスだと思いますが、やっぱり植村さん、何事もまずは大きく深呼吸。素振りしてから自分のスイング！ですよ。



宮元 健一郎

# 合コン

福岡でグルメ系エディターの仕事をさせていただいている私。

ここ十年くらいは2、3ヶ月に一度、飲食店の下見という名のもとに植村さんとデートを重ねているのに何の進展もありません。

私たちが知り合ったのは、たぶん30年くらい前の「合コン」でした。

メンバーは当時植村さんが勤めていた利助オフィスの面々でした。

マッチングアプリ全盛の今、もはや「合コン」は死語なのかもしれませんが、

当時、私が勤務していた会社には「合コン部」という部活があり（ふざけた会社だ）、週に何度も合コンをしてました。ときにはダブルヘッダーと称して、一晩に2組と合コンをすることもありました。ちなみにひまだったわけではありません。福岡でも有名なブラック企業で、残業代なしの深夜までの仕事の日々でしたので、合コンの後は、会社に戻って仕事ということがほとんどでした。なぜそこまで合コンに力を注いだのか、今となってはまったく覚えてません。しかし、今でも覚えています。現在とまったくかわらない初々しい植村さんの姿を。

数え切れないくらい行った活動のなかで、今、私の記憶に残っているのは3組だけで、しかも今もおつきあいがあるのは植村さんだけです。1回の合コンで5人の女性に会うとして100回やってたら500人（たぶんそれ以上）。そのなかのたった一人の希少な存在が植村さんなのです。

一見近い業界ですが、広告主体だった植村さんと、出版社のしかも当時営業担当だった私ですから、あのふざけた会社のふざけた部活がなかったら、おそらく一生会うことはなかったと思います。

私が日々飲食店の下見をする職業につくなんてことは当時まったく想像できませんでしたが、今、この仕事で20年以上食べられているのは合コンのおかげなのです。ありがとう、合コン部。違うか。ありがとう。植村さん。おめでとう10周年。



弓削 間平

# ここにいた、ミラクルガール／コロナ禍のマスク編

まだまだコロナ禍だった昨年の話。

さあこれからミーティングという時に、絶対持ってきたはずのマスクが見当たらないと植村社長。

さっきまでつけてたし、絶対持ってきた!と何度もおっしゃるので、テーブルの上、書類や手帳のなか、ポケット、床、椅子の上に至るまで  
思いつく限りのありとあらゆるところを2人で探したが見つからず。

もう会議が始まる時間という事で使い捨てのマスクをお貸しました。

後日、あの時のマスク不思議でしたね、どこいっちゃったんでしょうね、と話すと  
...

あ、あれ、靴下とスリッパの間に挟まってたんですーお騒がせしました、そういうこと結構よくあって!

とさらりと笑顔で返されました。

ん?!

スリッパと足の上にマスクが入るってどういうことだろう?

会議中もずっと足でふんでいて気付かなかった?

そして何よりそんなダブルミラクルが日常よくある?

いや。ないなーい!と心の中でひとり突っ込んでおりました。

あらためて、やっぱりただものじゃないし大好きだーと心から思ったあの日。

植村社長、これからもついていきます!よろしくお願いたします 🙏



櫻井 実代

# 植村スマイル

植村さんはじめ、アポロデザインのみなさまの素敵な笑顔は、この10年間でたくさんの方々を幸せにされてこられたことであろうと、容易に想像できます。僕もその笑顔で幸せを感じている中のひとりです。

植村さんとはじめてお会いしたのは8年程前。那珂川町で開催したトークイベントに参加いただいたとき。メールで参加申込をいただいたのをみて「うああ、本物の植村さんが来る!」と、僕の中では本とWEBとかでした拝見したことしかなかった、雲の上にいちゃるような存在の方だったので、驚きと緊張しかなかったことを思い出します。初めて実物にお会いした時の第一印象は、当然ながらその素敵な笑顔。植村スマイルに出会った瞬間を今も鮮明に記憶しています。

ここ数年、西方さんのおかげでお会いする機会をたくさんいただき、その度に植村スマイルに心癒されております。これからもたくさんの方々へ植村スマイルで幸せを届けてくださいね!

10周年おめでとうございます。



北寄 剛司

# キャリアの母、植村さん

今から約15年前の話です。当時徹夜続きで、きっと死んだ顔をしていた私。あるとき植村さんが『ちょっと出かけようや〜』と言って私を連れ出してくれました。「ん？打ち合わせ？いや、違う。私何かやらかした？」と思い巡らせながら植村さんについて行くと、そこはマッサージ店！『いつも頑張ってるから！ゆっくりしておいでよ〜』とおっしゃっていただき、ただただびっくり！マッサージ中に寝落ちしたことは言うまでもありません。おかげでぼーっとしていた頭がスッキリ回復！その後集中して仕事ことができました。

植村さんのさりげない心遣いにいつも救われていました。仕事に対する姿勢——集中するときは集中、休むときは休む、遊ぶときは思いっきり遊ぶ！メリハリのあつ生活を送ることの大切さを教わりました。

今はフリーランスでお仕事していますが、元々は植村さんが私を励まし、支えてくれたことがきっかけです。結婚で宮崎に行くことになり、私の中ではこれでキャリアは終わりだろうと思っていました。一人で続ける自信がなかったのです。しかし「できるから！絶対！デザイナーを辞めないで！」と植村さんが涙ながらに私に語ってくれたこと、今でも脳裏に焼き付いています。あのとき諦めなくてよかった！と今とても実感しています。私の生き方を指し示してくださりありがとうございます！

アポロデザイン10周年おめでとうございます！今後ともよろしく願いいたします。



福間 友紀

# ボニーの顔が腫れた日

警固時代、事務所に連れて来ていた愛犬ボニーちゃんの顔がいつもと違うと心配した植村さん。「顔が腫れてる!何かの病気かもしれない」と大号泣して動物病院へ。結果、リスみたいにごはんを頬に詰まらせていただけだったと、泣き腫らした目で笑いながら帰ってこられました。昔も今も愛情深さはピカイチです!



fook 生野朋子・酒井理恵子

# 帝国ホテル

東京在住の私より東京グルメに詳しい植村さんとは、築地、丸の内、神田などなど、東京のあちこちでおいしいものを食べてきました。その中でも印象的だったのは帝国ホテルのビュッフェに行った時のことです。あの帝国ホテル、美しいしつらえ、洗練されたサービス、出てくるもののおいしさにテンションがあがった私と植村さんは、盛り上がり、限界をはるかに超えた量を食べ、帰り道は真顔&無言で重い身体を引きずるようにして帰ることになってしまいました。あんなにおいしいものを食べたのに。いま思い出しても笑ってしまいます。

植村さんとは山ほどご飯を食べてきました。これからも一緒にご飯を食べながらいろんな話がしたいです。ただいつも絶対にごちそうしてもらうことになるので、いつか素敵なおところでごちそうできるようにがんばります。一生、10歳上の自慢の上司です。アポロデザイン10周年おめでとうございます！



中川 實穂

# 憧れの同級生

「はい、いいですよー!大丈夫ですよー!」の言葉に甘え、いつも困った時ばかりヘラヘラと植村さんに頼ってます。なかなかお返しもできないままツケだけが膨らんでいます。

弊社の創業時も肉親のように喜んでくださり、折々のお祝いも欠かさず贈ってくださり、もしかしたら私、狙われてんじゃないかなと思うくらいです。

優しくて、可愛くて、聡明で、頼り甲斐があって、情にもろくて、食いしん坊で、気前が良くて、感じが良くて、おっとこ前で、さらーっとしてて。私、植村さんならアリです。

今後もツケは膨らむ一方と思いますが、未永く甘えさせてください。  
10周年おめでとうございます。



渡辺 加奈子

# アポロデザイン10周年のデスクに座ってみたら

アポロデザイン10周年おめでとうございます！

福岡の「歩く笑顔」といえば、植村康子さん。  
このお方、しかないでしょう。

その笑顔のままで、  
東にお困りごとあれば、行って解決策を提案し、  
西に業界志望の学生さんがいれば、あちこち就職先を探してあげ、  
南で開催されるイベントにも、サクサクとおでかけし、  
いろんな飲み会にかけつけ(ドタキャン話もありましたがww)  
家に戻れば猫たちのお世話もかかさず、  
ネットフリックスの話題作も驚くほどしっかり観ている。

社長業もお忙しいはずなのに!!なぜ!?  
どんな時間の使い方をしているんだろうかー?とっていました。

そして数年前、  
私がわけあって、アポロデザインにデスクを借りていた時、  
植村さんのヒミツ、いやヒケツを知ってしまいました。

窓ぎわの社長椅子から立ち上がり、  
コピー機まで、タタタタッ!  
お打ち合わせで2Fに行くときも、タタタタッ!  
おトイレにも、タタタタッ!

最後のは、お腹が痛かったのかもしれませんが、  
オフィス内を小走りされているシーンによくぶつかりました。

なお、足音を聞きつけてふと植村さんの顔を見上げると、  
100発100中、100点満点の笑顔です。

「歩く笑顔」どころじゃなかった。おみそれしました。

「走る笑顔」で日々、パフォーマンスを上げていらっやっただのですね。

最高に可愛くて、行動力のかたまりである植村さん。  
これからも、笑顔で走りつづけて、  
世界中の人々および動物たちを増々トリコにしていってください♡

次回、15周年も楽しみにしております。

あ、その前に、忘年会しましょー!



西村 里美

# 腹立たしい女

九重登山に行った時。みんながピーチクおしゃべりしていても黙々と歩く。みんなが休憩している時も、一足早く出発する。道々花を愛でたり、蝉を探したりすることなく、脇目も振らずただただ必死に登る。頂上に着いて聞いてみると、「自分が一番登るのが遅そうだったから皆さんにご迷惑にならないよう」とのこと。

また別の日。ゴルフを一緒にやったのだけど、距離の見極めや素振りさえすることなく、カンカン打って、ダッシュして、打数気にせず打って走って、打って走って汗かいてる。これもあとで聞いてみると、「自分が一番下手そうだったから皆さんのご迷惑にならないよう」とのこと。

康子さんって、一時が万事、こんな人。心配りの塊。

思いやりがあって、配慮があって、強さがあって、優しさがあって、愛があって、しかも可愛い。私が欲しいものを全部持つてる腹立たしい女、それが康子。うらやましい。

そんな女が社長やってる会社が繁盛しないわけがない。

長い付き合いなのに最近のネタで申し訳ないけど、10周年おめでとう。これからも友達でいてください。



吉田 ゆかり

# 〱 植村康子 〱 という生き方

ユカリーヌのマヤ暦によると  
容子は康子がとても気になる存在だそう。

1/2

長い付き合いながら  
不思議と、一緒に何かした思い出がたくさんあるわけではない。

ひとこと言えば  
ラベリングは  
もっと楽にやり過ごせばいいことも、いろいろ背負って  
自分を大変にしちゃう人

[いつ寝てるのか]  
自分の仕事以外でも  
いつも誰かの代打登板しているし  
多忙極まり無いのに  
アイドルやTVドラマもチェックしてるし  
ネットフリックスは欠かさない。

[自己犠牲の塊]  
傍から見ると  
なかなかハードな人生なのに  
「私がなんとかやればいいんで～え」と自分をささげ  
リベロのように  
こぼれそうな球を拾いまくってフォローする。  
そのような皺寄はカラダにでる程に…最近だけでも〇〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇  
〇〇など次から次へと、全部は書けないわ。



山本 容子

# 〳 植村康子 〳 〳 という生き方

[母性愛あふれ気味]

2/  
2

犬、猫、ヨシコをはじめ

年下だろうが年上だろうが

取り巻く全ての存在に

母のように寄り添い世話をやく。

あらゆる宴は店候補選定から素早く“調整さん”を作成などいつもいつも率先して段取りしてくれる。

どんなひとでなしの行いも慈悲深く受け止め包み込む。

この半世紀余り

いったいどれだけの人が

植村康子に救われたのでしょうか、

励まされたのでしょうか、

癒されたのでしょうか。

疑うことを知らず

呆れるほどの世話好き精神と愛くるしいビッグスマイルで、みんなを救い幸せにし、大変なことも乗り切る実は強いコ。

あなたは

ずっとそのままでいてください。

これからも容子が代わりに

ばやいたり、憤慨したり、怒り心頭したりと

全て解毒してあげます。

10周年おめでとう。



山本 容子

# 植村先輩の泣き顔と沢渡社長の思い出／なまはげ編

私甲斐みどりが入社してすぐ、笑顔で近寄ってきて、大変な仕事に巻き込んだ、いえ、お声がけしてくれたのが植村先輩でした。

朝昼晩繰り広げられるハードワークの中、その仕事の外注である担当カメラマンとスタイリストが大変仲が悪く、撮影の途中で喧嘩を始めることがしばしば。撮影はすすまない、緊張がはしる、何をそんなに怒っているのやらサッパリわからず、困り果てた植村先輩と私が「スタイリストもカメラマンも変えようかと思う」と別の先輩に話をしたのが沢渡社長の耳に入ったようで、私たちは社長室によびだされました。

なんとそのケンカカップルのカメラマンとスタイリストは沢渡社長の知り合いでありました！

沢渡社長から事情を聞かれたので「入社して+可愛い+東京帰り+電通コネあり」の私が空気をよめず、「あんなカメラマンとスタイリスト福岡といえどもありえないですよー、変えちゃうべきですよー」みたいな事を言い終わるや否や沢渡社長から「うおーっ」と怒鳴られました。

たぶん何かお言葉を発したんだと思いますが、私には「うおー」にしか聞こえず、思わず横をみると笑顔しか見たことなかった植村先輩の顔が、恐怖に引きつり大きな瞳から涙がポロポロ出ているのを見て、私も悲しくなっておいおいと泣きました。なのに目の前の沢渡社長はまるで「なまはげ」のように、ガーガーと怒り続けるので、「こんな会社辞めてやる！」と思いました。

次の日にまた2人社長室によばれました。喧嘩上等な気持ちで行くと今度は笑顔の沢渡社長から「薩摩切子」のグラスセットをいただきました。面食らった私が「突き返してやりましょう！」と言わんばかりに横を見ると満面の笑顔の植村先輩がにっこりと笑っていました。大人な対応のビッグスマイルでした。

この人(植村先輩のほう)についていこうと胸に誓った入社した年の出来事でありました。

今でも植村先輩が泣くと私も泣きたくなるのはあの時のトラウマだと思います。植村先輩がキラキラニコニコの歳でありますように。



甲斐 みどり

# アポロデザインと言えば…

私、石村はアポロデザインさんでアルバイトをさせていただきもうすぐ2年目になります。アポロデザインと植村社長のお話をする上で欠かせない存在といえばアポロデザインの看板猫であり副社長でもあるジャニーさんとメリーさんだと思います。初めてアポロデザインにお伺いした2年前の11月。机に向かい合って座った植村社長と私の間にはジャニーさんがのびのびと寝転がっておられました。アルバイト中、業務内容のご指示を伺いに植村社長のデスクに行けば、ほぼ確実にジャニーさんが私と植村社長の間におられます。自ら精神的にも物理的にも会話のクッション材となって下さっているジャニーさんには本当に頭が上がりません。また、ジャニーさんの妹分メリーさんも中々濃いキャラをお持ちです。ある時、私の足元をメリーさんがすりいっとそのふわふわの体をこすりながら通られました。普段あまり撫でさせてくれないメリーさんが珍しく甘えてくれたのだと思い、私は浮かれました。しかし、私の足元を通過したメリーさんは机の脚に体をすりいっとこすり付け、その先の壁にもすりいっとしていったのです。「あっ。私の足は机の脚や壁と一緒にだね」と少し切なくなりましたが、可愛いのでそんな気持ちはすぐ吹っ飛びました。そんな2匹と共に植村社長が健康で、アポロデザインが未永く続きますよう願っております！



石村 友里絵

# 脱 高 校 生

植村社長はいつも「大丈夫？」と聞いてくださいます。例えば、緊張で肩が上がっている時だとか、多分私が間抜けな顔をしているときだとか、私が会社に1人残る時だとか、おつかいを頼まれた時だとか、たまたまお昼ご飯が質素だった時だとか、学生さん相手にしどろもどろになっている時だとか、仕事で失敗した時だとか…。

挙げ出すとキリがないくらい的大丈夫?をいただけてきました。(今自分で思い返しながら22の社会人としてさすがにどうかと思いましたが割愛します。)

そんな中で「古賀ちゃんには同期がないから…」とさせていただくことがあります。もしかしたらそれはマイナスな部分もあることなのかもしれません。しかし、それをマイナスだと感じる事がなくらい日々たくさん的大丈夫?をいただいているし、アポロでの毎日が楽しいです。

もちろんずっと心配される訳にはいきません。

私が常に高校生と言われるのは中身の未熟さもかなり影響しているのではないかと思いますし、植村社長はじめ周りの方々を気遣えるくらい安心感のある大人目指し、これからもアポロで働いていきたいです。



古賀 純佳

# 雨とかにも負けない

アポロデザインの皆様10周年おめでとうございます。

長い長い間ひたすら駆け抜けていらっしゃる植村社長には胸を打たれます。

時には爪の間に泥が残ってしまうような仕事、暑さに堪えながらの仕事、、そんなキビシイ仕事は必ず率先して立ち向かっていらっしゃいます。

さらに私が困っているときには抜群のセンサーで感じとり、声を掛けてくれます。

大変ありがたいですし、何ならジワジワきてます。

もはや宮沢賢治の雨とかにも負けないとかいうアレの人です。そういう者に私はなりたい、とか言ってめさせてください。(何だろう、この終わり方w・o)



藤山 若菜

# かぼす

秋になると毎年たくさんのかぼすが植村社長宛に届きます。

かぼすを見ていつも思い出すのはアポロに面接に来た日のことです。

Webサイトで見つけ、社員募集のお知らせもない中突然ポートフォリオを送ったアポロデザイン。

面接の連絡をうけ、佐賀から大手門まで電車を乗り継ぎ、BLDG64というビルにあるデザイン事務所の扉を開けました。

緊張の面持ちで面接を終えた私に、植村社長は帰り際「これお土産、持って帰って!」と、紙袋にたくさんのかぼすをいただきました。

何より緊張がふわっとほぐれた瞬間でした。

あれからかぼすを貰うのは今年で4回目になりました。

この「かぼす」のような些細な気遣いや思いやりを日々、沢山頂いています。私も「かぼす」のような心配りを手渡せるような、そんな風にあたたかなお返しができる人間になっていけたらと思います。



東 成実

# 声

約10年前、以前の職場から転職を考えていたときに当時の上司から紹介いただいたのがアポロ計画でした。

「アポロ計画のウエムラさんという方に直接電話してね」と上司。

ウエムラさん。

どんな人だろう？

性別も年齢も何をしている人なのかも分からず、少しの不安と緊張を抱えてそのまま電話をかけると「はあい！植村です」とそれまでの心配がパッと吹き飛ばす明るい声。

それから入社して一年も経たずに会社がふたつに分かれることになり、新体制になるアポロに残るのか、入社時と条件が異なる為このタイミングで退職するのを選択を迫られた時がありました。それまでいた先輩方がほとんどいなくなることもあり、まわりからのアドバイスもあって一度は辞める決断をしました。

でもなんだか腑に落ちない。

まわりから心配されたけど、私は辞めたいと思っていなかったことに気づきました。

それから月日が過ぎ、いろんなことがありました。

楽しいときもあれば、ちょっとしんどいな。と感じることもありました。

しかし植村社長はいつでも強く優しく笑顔で、そんな植村社長を見ると不思議と前を向けるようになるのです。おかげで私は何度も踏ん張ることができ、気づけば10年が経ちました。

初めて聞いた時のあの明るい声の印象は今も変わらず、アポロ計画に入社したことも、アポロデザインに残ったことも、我ながら良い選択をしました。こんなにみなさんに愛されている植村社長のそばで働けているのはとてもラッキーです。

スタッフではありますが、アポロデザイン10周年、心からおめでとうございます！



森 由佳里